

## タウンミーティング意見・提言等記録

記録：秘書広報課

日時	令和2年11月4日（水）19時00分～20時30分		
場所	宍粟防災センター5階	参加者数	計 40人
出席者	福元市長、佐竹院長、中村副市長、隅岡参事、前田部長、世良部長、坂根参事、三木次長 司会：水口次長 プレゼン：船曳次長 事務局：岩路、藤原、植田、斉藤、平瀬		
参加者	まず前段としてミツマタのことに対して聞きたい。タウンミーティング以外の課題で、行政の透明性について雇用創生協議会の問題も報告されるべき。そして、病院のことについて次の問題について説明してほしい。 病院用地の買収に計画性がないのではないか。都市計画などに盛り込んで下準備をしてから進めるべきだったのではないか。以前から病院を作るつもりがあったのか。 災害に強い病院という話があった。建設予定地はハザードマップを見ると洪水の心配があるが、大丈夫なのか。 建設費用の返済は大丈夫なのか。人口減少で病院の収入が減れば税金の投入も出てくるのではないか。		
福元市長	雇用創生協議会の問題については、先般、検証委員会からの報告を受けた。大きく3点あった。 1点目は、市長、市が制度をしっかりと理解できていなかった。 2点目は、市の管理、チェック体制が不十分だった。 3点目は、兵庫労働局の調査による調査で、不適正な会計支出が確認されたことをしっかりと踏まえること。 私も、市も、法律、制度をしっかりと理解して事業をしないといけない。我々は深く反省しないといけない。 それをふまえ、全容解明に全力を注ぐ。不正行為にかかわったものに対して、厳正に毅然と対応する。法的な措置を講じる。捜査機関の調査に全面的に協力する。行政の透明性を確保するため、行政の公平性を担保し、再発を防止する。ただ、行政が民間を支援することは吝かでない。ただそのチェック体制はしっかりとしないといけない。 土地の買収については、数年前から市の地域医療をどうするのか、宍粟総合病院の建て替えの必要性はどうかをやってきた。議会でもいつか建て替えないといけないと。中核病院として機能を維持しなくてはならないことは数年前からあった。結果的にああいう土地が出てきたわけで、適地などいろんな事情をふまえて議会に提案させていただいた。結果的にあの場所が妥当と考えた。		
前田部長	宍粟市の地形は、主要道路沿いは全て浸水エリア。少し離れると土砂災害の危険がある。浸水対策は、基本計画でしっかりと対応していけると判断している。		

隅岡参事	<p>建設に当たっては地方債を発行して財源を確保する。基本計画等を立てた後で、国や県に地方債発行の伺いを立て、その上で正式に事業がスタートする。返済は病院が50%、市が25%、国が25%になる。今も約4億の地方債の償還をしており、基本計画でそのあたりをふまえながら進めていく。</p>
参加者	<p>市長の話にあったが、透明性が大事だと思う。 議会だよりも臨時議会での報告がない。広報誌にも載らなかった。6億もの土地を買ったら市民に知らせるべきだ。これから新病院の建設を進めていくときに不透明な部分が無いようにしてほしい。</p>
福元市長	<p>可能な限り透明化に努める。 ただ、議会からの報告については議会に繋ぐ。 具体的な基本計画、設計ができれば、国や県の指導を受けながら、可能な限り補助を受け、少しでも市の負担が軽くなるよう努め、情報発信していく。</p>
参加者	<p>建設費は国や県の補助を受けてといった話があったが、土地の購入についてはどうなのか。西宮市民病院がアサヒビールの跡地を購入するとき75%の補助が投入される補助金活用があったようだが、そのような補助金活用の話は出なかったのか。 あと、市の一般会計から4億円が繰り入れられているが、これを差し引いたら3億6千万円の赤字になるが、どうなのか。</p>
隅岡参事	<p>西宮については、統合再編の条件があったので補助があったのではないかと。宍粟市ではそのような条件は無いから、補助はあたらぬ。 市の会計からの繰入金も毎年4億円強ある。これは公立病院が担う二次救急や周産期医療は民間ではなかなか対応できない医療ということで、国の基準に基づいている。これが無かったらどうのという議論は、公立病院では必要がないと思っている。公立病院が役割を担っているから措置されているもので、その上での赤字黒字の議論になります。</p>
参加者	<p>高い金額の買い物をするわけだから、もっと慎重にすべきだったと思う。 一般会計の繰り入れは、それが当たり前のもので理解しました。</p>
中村副市長	<p>土地購入についても補助は検討したが、対象にならなかった。</p>
参加者	<p>交通の面をしっかりとしてほしい。 院外処方について、考えはあるか。</p>
福元市長	<p>市内公共交通のバスは200円で乗れる。山崎で一旦止まってから病院の方に行っているが、神姫バスと協議して足の確保をしていきたい。</p>

隅岡参事	院外処方については、薬局は何らかの対応をされるものと思っている。 院外処方はルールになっているので、病院が直接やることはできない。議論を進めていく。
参加者	新しい病院に新しく付加される内容や機能があれば、説明してほしい。
佐竹院長	当院が中核病院として担う役割は、救急、周産期、小児、普通の病気は診られるように、みなさんに信頼されるように、役割を果たしていく。
参加者	ドクターヘリなど、新しいものはないのか。
佐竹院長	一次救急、二次救急は地域の病院で診ていかないといけない。三次の救命救急センター案件は、三次の病院と連携をとって、三次の治療が終われば当院で対応する。 中縦の山崎インターにあるドクターヘリが比較的うまく機能している。今後、新病院での発着については、基本計画の中で練っていく。
参加者	新しい病院について期待している。どこまで進んでいるかもっと情報発信してほしい。広報に載せるなどしてほしい。
船曳次長	進捗については随時早めに広報していきたい。ただ、検討委員会も頻繁には開催できないため毎月とはいかないが、可能な限りそのように努めていく。
参加者	同じ自治会の84歳の方が亡くなった。餅をのどに詰まらせて救急車を呼んだら、土曜の昼なのに医師がいなかったため、佐用に行った。新しい病院ではそのようなことが無いようにしてほしい。
佐竹院長	非常に申し訳ないことだと思う。 常勤医師が少しずつ足りてきつつある。 去年の4月からは土日の当直体制も手厚く配置して救急車の受け入れができるように取り組んでいる。 急患が重なって対応できないケースもあるかもしれないが、要請を全て受けることができるようにしていきたい。 救急の受け入れは最重要課題と考えている。  (意見交換 終わり)

\* 発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。